

# 事業結果要約報告書

受付番号

2018 KJ-020

—科学技術振興関係—

平成31年2月5日

所属機関名 山陽小野田市立山口東京理科大学

申請代表者

役 職 工学部・応用化学科 教授

フリガナ ホウジョウ マコト

氏 名 北條 信

マツダ財団から受けた 助成金 150 千円 による事業結果について、  
次のとおり報告します。

助成事業名

第9回山陽小野田市かがく博覧会～小学校、中学校、高等学校、大学、企業が集う科学の祭典～(事業期間：2018年9月29日～2018年9月30日)

計 画

実 施 結 果

事業内容

日時：2018年9月29日(土)～2018年9月30日(日)  
場所：おのだサンパーク（山陽小野田市）  
対象：児童・生徒、一般市民  
定員：3500人  
内容：児童・生徒の科学作品の展示、高校・大学および企業による実験・工作ブースの出展

日時：2018年9月29日(土)～2018年9月30日(日)  
場所：おのだサンパーク（山陽小野田市）  
対象：児童・生徒、一般市民  
参加者(人)：3,178  
内容：児童・生徒の科学作品の展示、高校・大学および企業による実験・工作ブースの出展  
  
講演；0件、発表；0件、シンポジウム；0件

## 事業の目的・ねらい

山陽小野田市立山口東京理科大学は、前法人（学校法人東京理科大学）時代の平成18年から山陽小野田市との間で包括的な連携協定を締結し、現在まで多くの連携事業を実施してきた。特に、県内では数少ない理工系大学の特長を生かし、初等・中等教育に対する理科支援事業に力を入れている。山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会が主催する「かがく博覧会」は、その連携事業のひとつである。

「かがく博覧会」は、児童・生徒へ科学に対する興味・関心や好奇心を涵養することを目的としている。また、本事業は、青少年の理科離れを抑制し、広く市民に科学を学ぶことの面白さや重要性を提起することをねらいとしている。これらを達成するため、本事業は1)児童・生徒の科学作品展示、2)市内の高校・大学および企業等による実験・工作ブースの設置を行った。

## 事業の概要

本事業は、山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会が主催する大型の科学イベントとして企画され、9月29日・30日と二日間に渡って開催された。会場は、例年通り、山陽小野田市にある大型商業施設「おのだサンパーク」の催事ホール・ギャラリーおよび敷地を借用した。催事ホールの中央に科学作品展の展示台を配置し、それを取り囲むように各出展団体の実験・工作ブースを配置した。また、屋外展示やサイエンスショーを計画していたが、今年度は荒天により、急遽、屋内での実施に変更した。当日実施した企画は以下の通りである。

### 1. 科学作品展

市内の小・中学校の児童および生徒による科学作品の展示を行った。二日目には表彰式を執り行い、優秀賞・教育長賞・山陽小野田市立山口東京理科大学学長賞の表彰を行った。また、今年度は山陽小野田市立山口東京理科大学の薬学部開設年度であったため、学長特別賞を設け、薬草に係る研究発表をした児童を表彰した。

### 2. 実験・工作ブースの出展

市内の高校・大学および企業による実験・工作ブースを設置した。展示タイトルは下記表の通りである。開催期間中、参加者は任意のブースに訪問し、自由に展示内容を体験できる。また、参加者のブース巡回を促すため、スタンプラリーを実施した。

展示者	展示タイトル
厚狭高校	ウミホタル発光実験、デコ葉脈標本しおりづくり
小野田高校	超低温の世界、色や磁石や鏡の不思議な物理ランド
小野田工業高校	ゴルフボールゲームでゴルフボールを操ろう、もぐらたたきゲーム&ラジコンロボットの操縦体験、Kid's キャンドル（～ダンシング火～ロウ～）
サビエル高校	摩擦のないCDの円盤、ルミノール反応
山陽小野田市立山口東京理科大学	人体の科学と薬剤師体験、小型ロボットの操作体験、光を分けよう！曲げよう!!、スライムを作ろう、色が変化するハーブティー「マローブルー」、くすりの秘密～くすりの飲み方と工夫～、ラズベリーパイを使ったプログラミング体験、小型のロボットをプログラムでうごかしてみよう、理科大のお兄さんたちと遊ぼう、小型レーシングカーに乗ってみよう、山口東京理科大学サイエンスショー「低温の世界を体験してみよう！」
日本化薬株式会社	魔法の板で光と遊ぼう！～オリジナルスタンドグラスをつくろう～
戸田工業株式会社	簡単手作りモーターを作ってみよう！
株式会社ササクラ	音って不思議！
山口合同ガス株式会社	ガス管で万華鏡をつくろう！
THK株式会社	砂鉄で遊ぼう
長州産業株式会社	ソーラーエコハウスを作ろう！

## 成果・効果

成果について、来場者数の点から評価すると、昨年と比較して今年に来場者数は約300人減少した。しかし、これは開催当日に台風が通過したことが影響したと考える。一方で、平年通り3,000人超の来場者数を維持したことは、山陽小野田市民をはじめとする来場者の本企画に対する期待の表れだと推測する。また、荒天の中の実施にもかかわらず事故等のトラブルが無く事業を完了したことを報告する。当日の様子は大学WEBサイトにも掲載、報告した。

NEWS&TOPIX：第9回山陽小野田市「かがく博覧会」を開催しました

<http://www.socu.ac.jp/news/2018/10/post-372.html>

学長の部屋：ダンゴムシと薬草

<http://www.socu.ac.jp/summary/president/2018/10/post-51.html>

効果について、本報告では会場の様子から評価する。実験・工作ブースでは、「科学」という言葉に捉われず、好奇心をもって楽しむ年長・低学年児童の姿が見えた。このことから、一つは本事業が科学への関心の導入として定着していることが伺える。一方、科学作品展では、制作者の学年が上がるにつれて実際の科学研究に近いレポート構成を取る作品が多く見られた。これは特定の学校に限らず、全校に共通して見られた傾向である。したがって、市内の初等・中等教育レベルで科学研究の要点を児童・生徒に指導できる環境が整っていることを推察する。

以上のことから、本事業においてのねらい（青少年の理科離れを抑制し、科学を学ぶことの面白さや重要性を提起する）を十分に達成していると考えられる。一方で、広く市民へ啓発するためには一層の仕組みづくりが必要とも考える。例えば、児童・生徒に付添い、支援する保護者・家族もまた科学の恩恵を享受する市民である。彼らが「かがく博覧会」に積極的に関わる意欲を醸成することが、本事業の目指すところと考える。

最後に、貴財団の助成については会場設営に係る諸費用に充てた。この場を借りてあらためて御礼申し上げる。

## 写真、図



写真 1 テープカットの様子



写真 2 液体窒素の体験



写真 3 大学生の実験サークルによる展示



写真 4 科学作品展表彰式